

予 算 要 求 資 料

令和 8 年度当初予算

支出科目 款：農林水産業費 項：林業費 目：森林研究費

事業名 研究開発機器等設備整備費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

森林研究所 電話番号：0575-33-2585

E-mail：c25108@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 6,134 千円 (前年度予算額： 5,144 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	5,144	0	0	0	0	0	0	0	5,144
要求額	6,134	0	0	0	0	0	0	0	6,134
決定額									

2 要 求 内 容

(1) 要求の趣旨(現状と課題)

森林研究所においては、「健全で豊かな森林づくりの推進」、「林業及び木材産業の振興」を支援する研究開発に取り組んでいるが、研究機器等の老朽化や能力不足のため、業界や行政からの要望や課題等に十分応えることが困難となってきた。

県内産業に「役立つ研究開発と質の高い技術支援」を提供するため、先端的研究の実施に必要となる研究関連施設の整備を行う。

(2) 事業内容

○順化室(修繕) 1 台

【要求理由】

本機は培養苗の順化(無菌状態で培養した苗を外部環境に慣らすこと)に必要な機器で、植物の育成に重要な温度、照度の制御が可能である。しかし、現在は、部屋2室のうち1室は温度制御装置の故障により全く使用することができないため、修繕する必要がある。

○樹木病害菌用培養器(更新) 1 台

【要求理由】

試験に供試する病原菌は一定の環境条件(温度・湿度)で培養する必要がある、温度および湿度条件を操作することのできる培養器を使用する必要がある。既存機器は故障していることから更新する必要がある。

3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細	
備品購入費	2,431	樹木病害菌用培養器	2,431千円
需要費 (修繕費)	3,564	順化室修繕費	3,564千円
委託費	139	培養器等既施設設処分費（入替2台分）	139千円
合計	6,134		

決定額の考え方

事業評価調書（県単独補助金除く）

☐ 新規要求事業

☒ 継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか

先端的研究を行うために必要となる研究関連施設や機器等の整備・更新により、研究業務の充実・停滞防止を図る。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前 (R)	R6年度 実績	R7年度 目標	R8年度 目標	終期目標 (R)	達成率
①						
②						

○指標を設定することができない場合の理由

研究所における研究業務の効率化・合理化を図るための施設整備等を行う事業であるため、指標の設定は困難である。

（これまでの取組内容と成果）

令和4年度	<p>バイオクリーンベンチ、小型凍結乾燥機、真空オーブン、GNSS(衛星測位システム) 機器を購入した。</p> <p>老朽化した機器の更新や、研究に必要となる機器の新規導入により、研究業務の効率的、合理的な遂行が可能となった。</p>
	<p>指標① 目標：____ 実績：____ 達成率：____ %</p>
令和5年度	<p>UV-B測定器、蒸留水製造装置、応力波速度測定器、植物育成用インキュベータ、超音波試験機を購入した。</p> <p>老朽化した機器の更新や、研究に必要となる機器の新規導入により、研究業務の効率的、合理的な遂行が可能となった。</p>
	<p>指標① 目標：____ 実績：____ 達成率：____ %</p>
令和6年度	<p>恒温恒湿機を購入した。</p> <p>老朽化した機器の更新により、研究業務の効率的、合理的な遂行が可能となった。</p>
	<p>指標① 目標：____ 実績：____ 達成率：____ %</p>

2 事業の評価と課題

〇〇課、〇〇課、〇〇課、〇〇課

【要求理由】

・事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断) 3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない	
(評価) 3	行政や企業等が求める新たな研究課題へ対応するためには、新たな機器の導入や老朽化した機器等の更新が必要である。しかし、これらの機器には高額なものがあり、他の事業では対応できない。また、耐用年数が経過し老朽化した機器も多くなってきており、事業の必要性は増加している。
・事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか) 3：期待以上の成果あり 2：期待どおりの成果あり 1：期待どおりの成果が得られていない 0：ほとんど成果が得られていない	
(評価) 2	研究機器や施設を整備することで、企業や県民が求める研究が効率的に進んでおり、事業の有効性は高い。
・事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか) 2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている	
(評価) 1	先端的研究を行うために必要となる研究関連機器や施設の充実に関しては、整備の緊急性や必要性等を総合的に判断し、優先順位を付けたうえで効率的に整備している。

(今後の課題)

・事業が直面する課題や改善が必要な事項 研究所の研究施設等は老朽化しているものが多く、整備には多額の費用が必要となることから、予算が不足することが課題である。

(次年度の方向性)

・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 着実に研究成果を上げ、研究業務に支障を来さないようにするためには、継続的な研究機器の整備が必要である。
--

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント 又は事業名及び所管課	
組み合わせる理由 や期待する効果 など	【〇〇課】